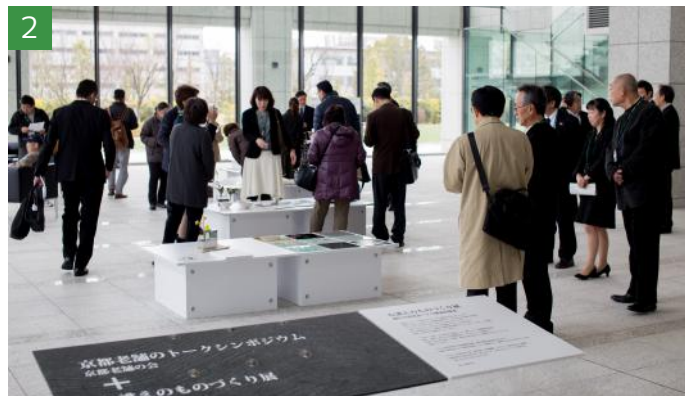


京都老舗の会 vol. 14 NEWS LETTER



トークシンポジウムを開催—新たなチャレンジモノづくり&コトづくり—。

京都の老舗が長年にわたり培い継承してきた有形無形の資産を基に、モノづくり・コトづくりの新たな挑戦やこれからの可能性を探るトークシンポジウムを島津製作所で開催しました。当日は新工芸研究会による「お誂えのものづくり展」も併催され、休日にも関わらず多くの皆様にご参加いただきました。



1 トークシンポジウム会場。

左からG K京都 吉田 治英氏 / 星のや京都 酒井俊之氏 / 宮脇賣扇庵 南忠政氏 / 塩芳軒 高家啓太氏。

2 3 お誂えのものづくり展会場。

島津製作所を仮想の注文主として、伝統工芸の技に新しい技術、素材も取り込んだお誂えのものづくりを提案。「御好次第何品ニテモ製造仕候也」という明治15年発行の島津製作所の理化器械目録表のフレーズを副題に用いた。

話題提供

1 高家 啓太氏

島津製作所の丸十文様とレントゲン機械「ダイアナ号」のメータを模した干菓子を制作。3Dデータをもとにテフロン素材を旋盤で加工。今までにない型が可能になるとともに、データの保存・サイズの変更も容易となる試み。一方で、サイズや形のバラツキ、鮮明すぎないラインなど、木型には木型の暖かみがあり双方の共存を考える。新しいものに挑戦しないのではなく、挑戦し良いものは取り入れ駄目なら次の挑戦を試みる。



2 南 忠政氏

島津創業記念資料館に展示の理化学機器を文様化した扇子を制作。扇子をレーザーで抜き加工した。非常に細かなドットで抜かれており、よく見ると紙だけでなく骨の部分まで加工がなされている。扇子は通常柄入りの紙と竹を組み立て制作するが、骨の部分にまで抜き加工を施すため、扇子を仕上げた後にバラし、平らにしてレーザー加工を施した。また、骨にチタンやカーボンを使うなどの試みも始めている。



3 酒井 俊之氏

星のや京都が目指す姿は「主客対等」。西洋のホテルに代表される主従関係（サービス）ではなく、主人と客が対等に提案をする。本日の料理のおすすめの食べ方、伝統工芸の体験、船に乗り月を眺め笛をきく…それは京都の奥深い「本物」に繋ぐきっかけを生む。写真は寺社でのお勤め体験。

